

イチゴ農家 4人誕生

J A全農岐阜 研修生が修了式

全国農業協同組合連合会県本部（J A全農岐阜）が運営する、いちご新規就農者研修所（岐阜市曾我屋）の修了式が31日、同市宇佐南のJ A会館であり、第10期生の4人が生産の担い手としてスタートを切った。

県産イチゴは生産者の高齢化、担い手の不足により生産量が減少傾向。J A全農岐阜は2008年から研修生を募集し専門家が実践

修了式では桑田博之

本部長が「皆さんの熱意が地域活性化につながる。夢を持って頑張ってもらいたい」と話し、証書を手渡した。岐阜市で就農する鷲見健登さん(25)は「岐阜のイチゴづくりに貢献したい」と語った。

(山田俊介)



修了証書を受け取るイチゴの新規就農者たち＝岐阜市宇佐南、J A会館